

主催 東京外国語大学総合文化研究所

共催 日本学術振興会・科学研究費補助金（基盤 C）

『多文化社会を創造的に生き抜くためのリーダーシップ養成』

精神史としてのギリシア悲劇： 前5世紀アテナイの知的状況

講演者：丹下和彦（大阪市立大学名誉教授・関西外国語大学名誉教授）

企画者・コメンテーター：田島充士（東京外国語大学准教授）

講演内容

古代ギリシアの前5世紀は啓蒙の世紀といわれる。法（ノモス）、知（ソピア）、自由（エレウテリア）、徳・勇気（アレテ）が時代を象徴し代表する価値観と見なされた。このことは歴史家ヘロドトスとその著『歴史』でつとに指摘しているところである。ギリシア悲劇とその上演はこの価値観を考究し、表示し、確認する重要な精神活動であると言ってよい。劇場ばかりではない。アゴラ（広場）ではソクラテスが誰彼なく人をつかまえて愛、知、善、美などについて対話を試みた。本講義では法と正義の問題を取り上げ、その諸相を悲劇作品の中に見てみたい。まずカリクレスの強者の正義論（プラトン『ゴルギアス』）を口切に、アイスキュロス『オレスティア』、ソポクレス『アンティゴネ』、エウリピデス『オレステス』などの作品中に法と正義の問題がどう扱われているか、探ってみよう。

講演者紹介

たんげ・かずひこ

1942年、岡山県生まれ。京都大学博士（文学）。大阪市立大学名誉教授、関西外国語大学名誉教授。

古代ギリシア文学研究者。古代ギリシア悲劇を中心に、多くの論文・著書・訳書を手がける。

主著は『ギリシア悲劇：人間の深奥を見る』中央公論新社 2008、『ギリシア悲劇ノート』白水社 2009 ほか多数。

学術活動のほか、大阪を代表する演劇研究集団『清流劇場』において、舞台の監修も務める。

日時：2021年1月18日（月）17：50-19：30（開場17：10）

開催形態：ZOOMを使用したオンライン形式講演

参加費用：無料

参加申し込み方法：参加希望者は、以下のメールアドレスにご連絡をいただくか、QRコードにアクセスして下さい。参加申し込み用ページにご案内いたします。

参加申し込み期限：2021年1月15日（金）17：00



参加申し込み先：tufs.lecture.on.greek.tragedy2021@tufs.ac.jp

ないし左のQRコード。

※ZOOMの操作方法など使用機材のテクニカルサポートはできかねますので、ご了承ください。